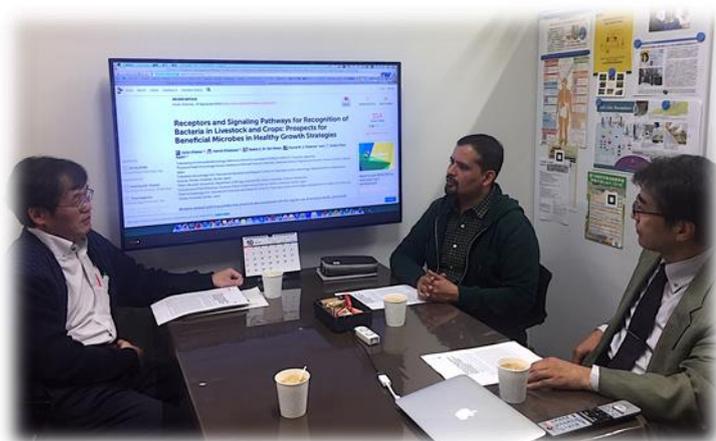
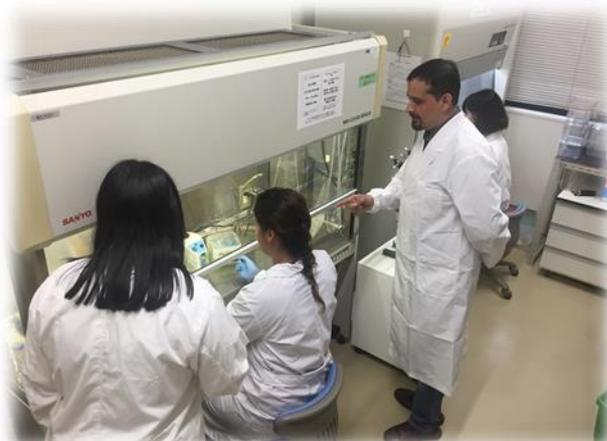


CERELA-CONICET(アルゼンチン拠点)との交流・共同研究

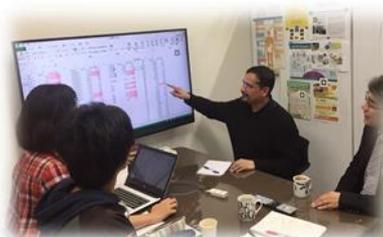
平成30年10月2日(火)にアルゼンチン拠点の国立乳酸菌研究所(CERELA-CONICET)より、Julio Villena博士(主任研究員)とFlavia Mansillaさん(PhD大学院生)が来日し、アルゼンチン拠点担当の北澤准教授と共同研究の進捗ならびに今後の計画について情報共有しました。また、拠点形成のコーディネーターで、CFAIセンター長の高橋英樹教授と、Frontierシリーズの特別号に関する打ち合わせや、今後の南米における拠点形成事業の発展について意見交換を行いました。Flavia Mansillaさんは、動物資源化学分野で共同研究を推進し、本年12月17日(月)まで滞在しますが、まずは、Mansillaさんが現在進行中のPhDコースプロジェクトについてセミナーを行い、今回の研究内容も含め、参加者で討論を行いました。Villena博士は、10月17日(水)までの2週間程の短期間の滞在でしたが、今回で7回目の来日ということで、日本の生活にも慣れた様子で、拠点形成事業に関する滞在中の計画を完了し、さらに新たな取り組みについても積極的にアイデアを創出することができました。今年度は、こちらからも北澤准教授と大学院生2名の計3名が、来年1月に2週間程、アルゼンチン拠点を訪問し、共同研究を中心として学術交流を行う予定で、今後のさらなる発展が大いに期待されます。



高橋教授(拠点形成事業コーディネーター)と打ち合わせ(右から2番目がVillena博士)



共同研究風景(左から2番目がMansillaさん)



共同研究討論



Villena博士による
共同研究概要説明



Mansillaさんによる共同研究プロジェクトセミナー